**「まず腰をすえて」   Sep. 4, 2016**

**ヤコブ 4:13-15 　ルカ 14:25-33 牧師：安達均**

主の恵みと平安がここに集まりました会衆の心の中に豊かに注がれますように！

10月9日をもってカール牧師が引退を予定されており、その後は当分、臨時の牧師が来られ、一年後位に、だれだかはまだわからないが、新たにシニアパスターを招聘することになる。

大きな移行期を、復活ルーテル教会として体験、通過することになる。　その移行期を前に、今日は、最初に、皆さんがそれぞれの人生の中で大きな移行期を過去に体験した中で、神がどう働かれていたか？　神の存在をどういうところで認識したかについて、振り返っていただきだい。

移行期といっても、いろいろな移行期があって、うむをいわせず、突然の事故や家族の死などによる移行期もあるし、今回の移行期のように、前触れがあって、準備期間もあって、移行期を迎えるような場合もある。たとえば、小学校に入る時とか、社会人になるとき、あるいは結婚するとき、どんな場合でもかまわない。

ここに集まっている方のほとんどは、日本で生まれ、そして何かの理由があってアメリカに渡ってきたが、その時のことでもよい。もちろん、家族はキリスト教徒ではなかったが、自分だけがキリストの信仰に生きることにした時のことでも良い。なにか一つの移行期について考え、神がどう働いていただろうか？

しばらく、わたしは黙ります。　ピアノでBGMでメモリー、追憶という曲を弾いてもらいますから、その曲を聴きながら、自分の過去と、神の存在を振り返ってみて欲しい。

本日与えられた聖書箇所、とくに、第二日課と福音書の内容に触れていきたい。聖書の中には、人生の移行期について、神の知恵、方向性を与えてくれるものが実に多い。　まずヤコブ４章の言葉、たった3節だけだったが、移行期に関する大きなポイントが書かれていたと思う。　なにか人生の移行期として、自分自身の野望をもち、ひとつ商売で金儲けしようという人がいる。

しかし、そんなことをいったって、明日の命がどうなるかなんてわからない。　イエス様はそういえば似たようなことを言っておられた。　豊作で自分の倉を建て直し、あとは、その豊作物を自分だけで、余生を暮らそうとした金持ちに、あなたの命は今夜、取り上げられると。

そしてヤコブは、主の御心であれば、末永くいき、主の御心にそって、これからは何をして行きようかを考えなさいという言葉を残している。

続いて、与えられた福音書にあっては、さきほど聞いていただいたとおりだが、主イエスの弟子になるにあたり、厳しい言葉が出ていた。　「両親や兄弟、親しい者を憎まないと、私の弟子にはなりえない。」　えっ、イエス様、なんでそんなことをおっしゃったの、疑いたくなるような箇所に出会うことがある。

しかし、イエスの言葉は、すべてを良きにしてくださる、すべての人間への救いのためにあると受け止め、じっくり観想することをお勧めしたい。　今日の箇所は、エルサレムで十字架に架かりに行くイエス様に従うかどうかのとても重要な場面での話しだ。　そのような重要な箇所で、イエスは、「家族を憎め」だけでは終わっていない。　そのあと、塔を建てるたとえ話と、敵と戦う王のたとえ話が出ている。

二つのたとえ話に共通していることは、「まず腰を据えて」という言葉。　イエスのおっしゃりたかったことは、イエスが前触れで自分は、ユダヤの指導者たちに殺される話や三日後に復活することも話しておられた。　そのイエスに従うということがどういうことなのか、よく考えなさい。　つまり、イエスキリストの信仰の本質について、じっくり考えなさいということをおっしゃりたいのだろう。

22年間に亘り、復活ルーテル教会の牧師として仕えられたカール牧師は、10月10日からはもう復活ルーテル教会にはいなくなる。　今日のヤコブ書、ルカ書から、主なる神は、私たちに何を語りかけておられるのだろうか？

さまざまな教会が牧師の移行期に、教会内で分裂騒ぎになったり、この牧師が大好きだから、私はこの教会に来ていたのに、もうこの人の説教が聞けないなら、この教会には来ません、という方が出たりするのは、現実問題としておこる。　また逆にこの牧師がいるから、わたしはこの教会に来ませんなどという方もいる。　しかし、それは神なる主イエスの御心だろうか？

移行期を前に、わたしたちには、主なるイエスは、まず腰をすえて、主イエスに従うことはどういうことなのか、よく考えるようにいわれているように思う。　教会は、牧師がとても重要な役割を担っていることは否定しないが、だれが牧師であっても真のリーダは救い主、イエスキリスト。

主イエスは、主なる神が創造されたすべての人間の勝手な思いを赦し、救われるために、すべてをなくして、無になられた。　そして、十字架にかかり、与えるものがあるのは、ご自分の体と血だけになられた。　そのような主は、十字架にて死なれたが、復活されて、その体を民に現し40日後には天に昇られた。

しかし50日後、ペンテコステには、聖霊が降り、人々の心を炎のようにし、キリストの教会が生まれ、あらたな開拓教会が生まれ続けている。それは、主イエスが、いまも聖霊として、私たちの間に生きておられ、またパンとぶどうジュースの中に存在してくださって、わたしたちを赦し続けてくださり、和解へと導いてくださる。　わたしたちのさまざまな人生の移行期や厳しい時代に、主イエスはいきいきと働いておられ、わたしたちを導いてくださっている。私たちはじっくり、まず腰をすえて、そのイエスを真のリーダーとする信仰について思いをめぐらせることが大切なのだろう。アーメン